

日本労働年鑑 第59集 1989年版
The Labour Year Book of Japan 1989

第三部 労働組合の組織と運動

VI 国際労働組合運動

2 国際労働組合の諸会議

2 世界労連WFTU系の会議

世界労連第三九回執行局会議

八八年三月二八～三〇日、アジスアベバで開催された。三四カ国三八組合から一〇八人の代表が参加した。

この会議では、(1)核軍縮時代の開発と労働組合、(2)アフリカ労働者・人民への国際連帯の強化、(3)世界労連の情報宣伝活動のいっそうの強化、という三つの議題が問題とされた。

世界労連第四一回総評議会

八八年一〇月二四～二七日、アジアで初めてインドのニューデリーで開催され、七五カ国、八六組織から二〇〇人以上の代表が参加した。日本からは、日本医労連、国公労連、国労、統一労組懇から四人の代表が参加した。会議では、第一一回世界労働組合会議の指針にしたがった世界労連と産別インター間の協力および各インターの産別活動のいっそうの強化、アジア・太平洋地域における労働組合運動の状況と当面の重点を議題とし、アジアの労働者・労働組合、諸国民との連帯決議、国連軍縮週間にあたっての平和・安全保障発展のための軍縮に関する宣言など一六の決議等を採用した。

公務員インター第八回大会

八八年三月二二～二五日、ブルガリアの首都ソフィアで公務員インター第八回大会が八二年以来六年ぶりに開催され、九五カ国から三三六人が参加した。日本からは加盟組織である国公労連の代表三人および医労連の代表二人、招待参加の自治労の代表三人が出席した。大会は、最終日にマイネル書記長が結語をおこない、労働者の生活と権利の擁護と拡大、核兵器禁止などをめざすたたかい、ニカラグア、南ア、チリ、パレスチナの闘争支援のために統一し協力してたたかおうと呼びかけ、「労働組合の権利、自由、連帯」決議、運動方針などを採択して大会を終了した。

労働組合と青年労働者に関するアジア・太平洋労組会議

八八年一月二〇～二二日、ソ連カザフ共和国の首都アルマ・アタでアジア・太平洋労働組合調整委員会が主催し、全ソ労評の協力により開催された。この会議には、二〇カ国のアジア・太平洋諸国と四国際組織から四二人が参加した。日本からは、統一労組懇から二人が参加した。会議では、深刻な失業、多国籍企業、核兵器廃絶をめぐる平和の問題がとりあげられた。

■ ←前のページ 日本労働年鑑第59集【目次】 次のページ→ ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
